

「PRSP」って何？ ベトナムの実例

1. PRSPの歴史とポイント

- 当初は重債務貧困国（HIPC s）に対する債務削減を行う際、債務削減によって得られる資金を貧困削減に有効に活用されることを確保する手段として、1999年より導入。
- 現在は、貧困国（IDA対象国）すべてに作成を義務付け。ベトナムは東アジアではじめてPRSPを策定し、本年7月に世銀理事会で議論。
- ポイントは、途上国政府が作成、幅広い関係者（ドナー、NGO、市民社会、民間セクター等）が策定に参画、貧困削減に主として焦点を当てた開発課題とその対策を述べたもの、3年間程度の計画、等。

2. ベトナムの基礎知識

- 経済は、順調（東アジアで中国に次ぐ成長率）。政治も安定（東アジアで一番治安のよい国？）
- 1986年のドイモイ政策開始以降、紆余曲折はあったが、現在は改革路線がほぼ定着。
- 一人あたりGNPはきわめて低い（約400ドル。）低下したとはいえ、3千万人の貧困層が存在。
- 外交は、全方位外交。ドナー国多数。
- 「社会主義志向の市場経済」を標榜しているが列記とした社会主義国である！（経済計画の存在、平等、人民参加）
- 世銀のベトナム融資再開は、1993年。最大ODAドナーは、JBIC、世銀、ADB。
- ガバナンス（汚職、法制度等）や人権問題は依然大きな問題。

3. 世銀の開発問題の流行 = ベトナムでの流行？ (流行り言葉相関図)

CDF	PRSP	CAS	MTEF, Common Funds, Harmonization of procedures (?)
			Sector-wide approaches (SWAps)
MDG	PRSC (PRGF)		

- **CDF (Comprehensive Development Framework)**: 1999年にウォルフェンソン総裁が提唱した、「開発問題の仕事の取り組み方」の指針。ポイントは、途上国の自主性（オーナーシップ）尊重と、途上国およびドナー国間、ドナー国間の協調（パートナーシップ）。ベトナムは、そのパイロット国。

- **MDG (Millenium Development Goals):** 国際的に合意された、2015年までの開発の数値目標。ベトナムへの適用については、後述。
 MDGの内容
 - 1990-2015年間に貧困を半減
 - 2015年までに全員小学校就学
 - 2015年までに教育における男女格差を是正
 - 1990-2015年間に5歳未満時の死亡率を3分の1にする。
 - 1990-2015年間に母親の死亡率を4分の1に。
 - HIV/AIDS、マラリア等の対策
 - 環境対策
 - 開発のパートナーシップの形成
- **CAS (Country Assistance Strategy):** 世銀の作成する世銀の今後3年間の融資方針。途上国の現状を分析し、世銀の過去の融資を振り返り、今後3年間の融資の基本方針を述べ、具体的な案件を提示し、さらにその案件が途上国の状況等によりどのように変化する可能性があるかを具体的に示す。ベトナムの次回CASは、本年9月理事会審議を予定。
- **PRSC (Poverty Reduction Support Credit):** 世銀の融資形態のひとつ。ポイントは、資金の使用用途がないこと、コンディショナリティ（構造改革等の政策改革が融資条件の条件となる）があること、短期間にディスバースされること。ベトナム向けは、昨年6月に承認。コンディショナリティは、貿易（関税率や輸入割当制限の撤廃）、国営銀行改革、国営企業の民営化など。PRSP策定後は、PRSPの中の開発戦略がコンディショナリティとして取り込まれる（はず）。PRGFは、IMFの同様の融資形態（コンディショナリティは、財政政策、国際収支政策、金融政策などのマクロ経済指標が中心）。
- **Sector-wide approaches (SWAps):** 特定のセクターの改革のために、ドナー国、機関が協調して特定のセクターの改革について、支援を行うこと。
- **MTEF (Midium-Term Expenditure Framework):** 特定のセクターの改革のための、中期的な資金需要を把握し、優先順位を定め、その資金計画を作成すること。
- **Common Funds:** 特定のセクターの改革のために、各ドナーの資金をひとつにまとめて、統一的な目的のために使用すること。日本は反対している。

- **Harmonization of procedures:** 主として途上国側の負担を減らすために、各ドナーのさまざまな手続きを統一化すること。ベトナムは、この運動のパイロット国。

4. ベトナムの PRSP (CPRGS) の実際

- 構成：貧困等の分析 対貧困等戦略（目標と対策） 必要資金見積もり（コストイング）ーモニタリングと評価の方法
- 特徴：
 - (1) ベトナムの既存の経済計画との関係
ベトナムの社会経済10カ年計画の内容
 - 10年間で所得倍増
 - 投資比率をGDP比の30%に
 - 輸出の伸び率は、GDP伸び率の倍以上
 - 農業セクターの比重を下げ、工業、サービスセクターの比重を増加
 - 都市人口比率の増加、等。
 - (2) ベトナム政府の体制、ベトナム政府は、なぜ、どこまでやる気を見せたか？
 - (3) 極めて広範なコンサルテーション、参加プロセス。このプロセスは、実際に役に立ったのか？
 - (4) ドナーとベトナム政府の関係、ドナー側のプロセスへの関与方法、役割。
 - (5) 成長側面の重視。
 - (6) 世銀のCASとの関係。
 - (7) ベトナムの実情に合わせた「MDGの現地化」とは。
- モニタリングや今後の展開など

5. ベトナムの PRSP に対する評価及び理事会での議論

- 世銀、IMFスタッフの評価
- IMF理事会、世銀理事会での議論

6 . PRSP に対してよく言われている批判のカタログ (及びベトナムの場合はどうであったか)

- 実際には、世銀あるいは世銀のコンサルタントが書いているのではないか？
- 途上国政府の行政能力と国内とりわけ地方レベルでの政治過程についての想定が妥当でない？
- 参加型対話プロセスといっても世銀がお膳立てしたり、強いたりしているのではないか？
- 経済成長と貧困削減の関係が不明確。経済成長の視点が欠落している？
- 戦略策定の手続きに過ぎず、開発戦略そのものではない？
- 開発戦略の中身についての実体的なつめは何もない？
- 世銀の官僚的画一性、組織としての付和雷同、異なる社会への無関心が悪影響？
- 費用見積もりのエクササイズはできが悪い？
- プログラマティックレンディングにつながるが、受入国側の財政支出管理やフィデュシアリー管理の弱さを考えると同意できない？
- ？
- ？
- ？
- ？
- 改定するに従って、硬直的、画一的、ドグマティックなものとなっていく心配はないか？

7 . 日本はどのような対応をとっているのか。

- PRSP の外枠で、途上国と直取引するか、PRSP の枠内で、取引するか？
- 画一的な援助様式の導入が気に入らない？